

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型通所支援事業所 心		
○保護者評価実施期間	～		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0	(回答者数) 0
○従業者評価実施期間	令和8年1月16日		～ 令和8年2月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者が安心し、楽しめるような環境づくりを心がけている。	活動がマンネリ化しないよう、職員間で話し合い、新しい活動、行事を取り入れるよう工夫している。 また利用者が楽しんでいた活動は個々の活動に取り入れるようにもしている。	昨年から事業所内での活動行事のほかに、外出行事も取り入れて利用者の活動の幅が広がるよう工夫している。 本年も利用者の体調に配慮しながら、1年を通じてお出かけ行事を実施予定。
2	ドア to ドアでの送迎支援及び、それにより、ご家族と直に話すきっかけ、時間が、ある程度確保できていること。	ご家族からお話があったことは管理者への報告、また翌日の会議の時間での職員への申し送り及び話し合い、意見交換等を行うことで、より良い方法を模索するよう心がけている。 また事業所専用LINEも設けており、ご家族へのお知らせやご家族からのご連絡等、やり取りをしやすい環境ができています。	
3	看護師を通常より多く配置しており、手厚い医療ケアを行える。	看護の人数を多く配置している為、医療ケアを手厚く行えている。また看護師とは違うが、喀痰吸引等(特定行為)登録者の資格をもった者がいるため、主治医の指示書及び看護師の指示の元、連携、分担をしてケアにあたっている。	今後も資格取得可能になった職員がいる場合には検討し、キャリアアップの為に少しずつ資格取得を行えるようにと考えている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所が借家であるため、厚生労働省が定める基準を満たしているものの、狭いと感じる事がある。	利用者様のご利用状況によってはお布団を敷いて対応させていただく必要があり、お布団をご利用される利用者様が多いと少し狭いという印象を感じている。	部屋に極力物を置かないようにして、利用者が伸び伸びご利用できるよう、工夫している。 都度、スタッフ間で話し合い、改善できる事はないかを検討している。
2			
3			